

シナアブラギリシンポジウム&シナアブラギリ染

あかいわ美土里の和

活動の目的

- * 災害が少ないと言われている岡山県でも、近年地球温暖化によると思われる自然災害が増加している。国・県は市町村に生物多様性地域戦略策定を義務付け、持続可能な社会構築を目指している。
- * 当会は里山再生活動を通じて地球温暖化という難しい問題を身近なものとして体感している。
- * 当会が整備する「磐山」に自生するシナアブラギリが明治から昭和30年頃まで非化石燃料、防腐剤等の原料として栽培されていたことを知った。
- * 近年、バイオディーゼル燃料として活用する研究が進められていることを知り、地球温暖化対策の一環として保護育成に務めるとともに、シナアブラギリの価値を啓発する活動を目的と定めた。

活動の内容及び経過

- * 保護・育成活動
自生シナアブラギリの落下種子が里山整備により発芽する条件を得、多数芽吹いている。苗を保護・育成する為に間引き、間引いた苗を新たに整備する「シナアブラギリ広場」に移植し育成する。活動として4月：自生シナアブラギリの調査、5月：「シナアブラギリ広場」予定地の整備開始、7月：既存シナアブラギリ親木の保護、8月～11月：広場予定地の整備、11月：10周年記念植樹祭に向けて移植試験作業を実施した。
- * シナアブラギリの価値・地球温暖化対策啓発活動
 - ※シナアブラギリシンポジウム：7月バイオディーゼル燃料研究者片山健至香川大学名誉教授、植物学者波田善夫岡山理科大学名誉教授、工芸木炭の権威坪内哲也伝統工芸木炭生産技術保存会代表に講師を依頼した。
 - ※シナアブラギリ染ワークショップ：草木染の素材として以前より知られているので「磐山の恵」活用ワークショップとして実施した。

活動の成果・効果

- * 保護・育成活動
 - ※成果：荒れ放題の既存生育地及び「シナアブラギリ広場」予定地を委託作業とボランティア活動により生育に適した環境に整備ができた。
 - ※効果：地上にまで陽光が届くようになり、新たに種子の芽吹きが見られた。また、移植試験を実施することができた。
- * シナアブラギリの価値・地球温暖化対策啓発活動
 - ※シナアブラギリシンポジウム：市内外から26名の参加



シナアブラギリ広場整備中



シナアブラギリ広場整備後



パネルディスカッションの様子



シナアブラギリ染ワークショップの様子

があった。知名度の低いテーマだったが、地球温暖化対策・バイオエネルギーには関心が高く活発な意見交換ができた。

※シナアブラギリ染ワークショップ：市内外から25名の参加があった。一部の会員以外は初めての体験にもかかわらず、絹布にきれいな黄色に染め上げ、シナアブラギリの価値の一部を啓発することができた。

今後の課題と問題点

- ※バイオディーゼル燃料実用化にはまだまだ克服する点がある。
- ※苗木が花を付けるまで5年以上、多量のオイル用種子を得るには10年後「研ぎ炭」を生産できるまでには20年以上の月日が必要である。
- ※この間、順調な生育を確保するためには毎年不要樹の間伐、下草刈りが必要となる。
- ※会の発足から10年になり、発足当初からの会員が高齢化している。次世代に速やかな継投が必要となっている。

- 代表者：白石齊 ●所在地：赤磐市下仁保
- TEL：090-4571-7290 ●E-MAIL：midori01@carrot.ocn.ne.jp
- 設立年：2011年 ●メンバー数：52名